

伊賀市議会 令和7年度地域意見交換会での農業に関連する意見一覧（伊賀市議会HPより）

- 伊賀市議会基本条例第8条第1項の規定に基づき、議員及び市民が自由に情報及び意見の交換を行う意見交換会を実施
- 令和7年度は、1班4名程度で5月から翌年2月までの間に、希望する住民自治協議会を対象に地域意見交換会を実施

（令和7年10月15日時点）

No.	開催日	自治協議会名	農業に関する意見（報告書記載文そのまま）
1	令和7年6月20日(金)	玉滝地域まちづくり協議会	●冒頭、議員より情報提供として、農業振興計画の策定、大山田農林業公社の中間管理の取組、阿波地域の獣害対策を紹介。 ●大山田は条件がいい農地があるが、玉滝は条件が悪い農地が多い。60代、70代の農家が農地を何とか守っているがペイしない。農水大臣の言う農機具のリースは無理。地域の中の農家だけで農地を守っていけるのか。不安なくやるなんて考えられない。草刈り中に亡くなった人もいる。農家組合を作ったが人材がない。鹿の獣害も酷い。そんなところを将来どうするのか。 ●営農組合を解散する。そば、小麦がとれなくなったため。担い手もない。道の駅の蕎麦屋も辞める。 ●田を八反やっているが、中山間や多面的機能の直接支払いは次の5年が来たら協定を抜く。今後耕作放棄地が山のように増えてくるし、空き家も増えてくる。 ●営利企業は、条件が悪い農地に手を出さない。玉滝は重粘土地帯で、田植え機やコンバインがはまりやすい。土手も高い。 ●草刈りを半日でしていたが、一日かかるようになった。 ●西山区の棚田の維持には補助金が出ているのか。 ●減反政策が無かったら小さな田んぼも続いていたのでは。 ●子供は農家の親を見て、同じ道を歩きたいと思うか。 ●農家は頑張ってきた。現状は、小さい農業を潰してきた結果だ。
2	令和7年6月25日(水)	依那古地区住民自治協議会	【獣害対策・アライグマ対策について】 ●檻の貸出状況や管理体制が不十分である。 ●データ集約と分析を徹底することで、効果的な対策がとれる。
3	令和7年7月14日(月)	花垣地区住民自治協議会	【農業の担い手不足】 ●補助金をもらおうと思ったら、相当のことをしなくてはならない。 ●米騒動による価格高騰はありがたい。農政は国でやることではないか。 ●収支採算があってくれば、担い手も出てくるのではないか。 ●様々な機械が必要で、一つ壊れても他はまだ使えるので修理するが、給料や年金を機械代に回している現状がある。 <議会の意見> ●新しい農業計画を立てているところであり、議会も見守っている。 ●新規就農の補助金が多いが、継続的に支援していくメニューは少ない。
4	令和7年7月14日(月)	丸柱地域まちづくり協議会	【小規模農地保全（農空間保全活性化）事業について】 ●助成金だけではなく農業の継続に向けた多様な支援が必要。 ●市が策定中の農業計画に具体的な保全策を盛り込んでほしい。 ●学校給食に有機農業の食材を活用してほしい。 <課題と今後の対応> ●高齢の農業者など「跡継者」の問題が深刻で自治体の本気で対策を考えるべき。 ●環境整備も含めて次世代へ繋げる視点が重要。

No.	開催日	自治協議会名	農業に関する意見（報告書記載文そのまま）
5	令和7年7月15日(火)	博要住民自治協議会	【獣害対策】 ●被害の背景として林業の衰退が指摘された。 ●中山間地域等直接支払を活用し対策を継続してきたが、サルの被害が特に大きい。 ●鹿・アライグマ、近年はカラスによる被害も発生。 ●対策例・意見 ・市が山を購入し、間伐を進めて環境整備することを提案。 ・追い払い花火の価格が高騰（現在500円）しており、経費負担が重いとの声。 <まとめ・要望> ● 獣害対策では、サル・鹿・アライグマ・カラスへの多面的な対応が必要。追い払い経費や森林整備への市の支援を望む。
6	令和7年7月17日(木)	花之木地区住民自治協議会	【獣害対策・農業環境】 <現状課題> ●クマ・鹿など獣害の問題 <参加者からの意見> ●獣害対策補助（20%）が今年は無いようだ ●獣害対策の強化が必要ではないか ●補助金条件の緩和をお願いしたい <議会からの意見> ●農業被害（食害）への対応が課題だと感じている
7	令和7年7月18日(金)	鞆田自治協議会	<現状課題> ●農業：支援制度等、農業政策の課題。 <参加者の意見> ●農業：奈良時代から稲作の地である。補助金制度を明示してほしい。 <議会の意見> ●農業：新しい農業振興計画を策定中。現場の声を聞いて支援を検討していく。一次産業従事者への補助が必要。

No.	開催日	自治協議会名	農業に関する意見（報告書記載文そのまま）
8	令和7年7月23日(水)	中瀬地域住民自治協議会	【獣害対策活動について】 ●獣害対策の勉強会を年に1回している。中瀬の被害状況は服部川を挟んで被害がある。 ●西明寺などにはフェンスの柵がない。荒木の方が効果があるがそれでも被害はゼロではない。 ●寺田は山の方から来る。また、名阪国道があるため西に移動はない。やはり、川から来ることが多い。昼は竹藪に潜んで夜に活動する。 ●箱罠を2基準備している。（補助金を活用して設置） ●三重県に服部川の竹藪の伐採を依頼したが、治水上、問題があるためできないと回答。 ●荒木ヶ丘は家の前まで、民家の前まで鹿が出没。仮に荒木ヶ丘にフェンスをしたとしても他に出没するだけだから、どうしたら良いのか？人に被害が出てからでは遅い。 ●荒木団地も沢山いる。住宅地には柵をするしかない。 ●効率が良いのはフェンスだが、川沿いに設置するのは難しい。 ●フェンスの設置が難しい。地域の出合ですのような情勢ではない。 ●新興住宅地と農村部とはフェンスの設置の考え方が違う。 ●フェンスではなくて捕獲に重点をおいては？ ●川の中の竹藪が問題であれば、竹藪をどうにかするしかない。 ●竹藪が鹿の住处なので竹藪を伐採するのが効果的だが処理するのが大変。処理するのにフェンスを設置するのと同じ費用や動員が必要。 ●現状の鹿の状況を把握し、まずは一頭一頭捕獲していくことが重要かもしれない。 ※要望 罠の補助金の増額（現状は20万）、柵の整備に対して国が1/2なので残りを市でお願いしたい
9	令和7年8月2日(土)	諏訪住民自治会	【獣害対策】 ●冒頭、議員より情報提供として、獣害対策の支援内容の紹介。 ●獣害対策として柵のシステムを導入しようと検討を始めたが大分費用がかかる。住民の方にも納得いただいているので、どのような支援があるか徹底的に調べて利用したい。 ●諏訪全体を網で囲っているが、入ってきたイノシシ、シカが外に出ることができないので、スポットごとに囲みたい。その資材の提供をお願いしたい。